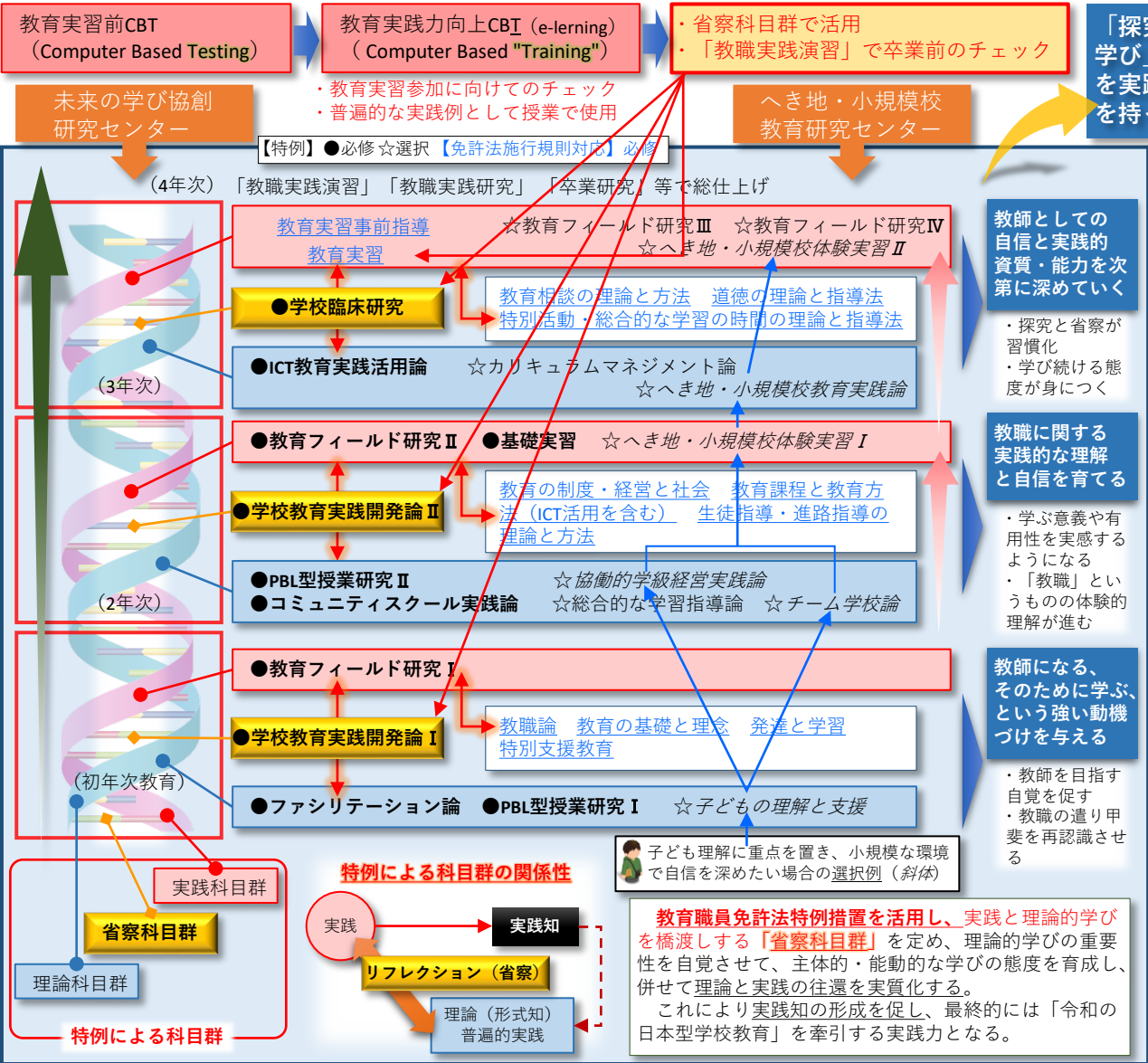


「令和の日本型学校教育」に対応した「実践」と「理論」のスパイラル型教職コアカリキュラムの構築 —“探究的・省察的实践家”としての教員の養成—



「探究力」と「省察力」を持ち、子どもの「主体的・対話的で深い学び」をファシリテートして、「個別最適な学び」と「協働的学び」を実践することにより、学習者中心の学びを牽引する高度な力を持った実践家として、令和の日本型学校教育を牽引する。

【実践科目群と省察科目群との関係 (一部概要；詳細は本文参照)】

- 教育フィールド研究I**
 行事参加、観察活動、子どもとの触れあい活動等の周辺参加。
- 学校教育実践開発論I**
 実践科目群やCBTを通じた気づき・課題意識を省察させ、理論的学び、専門的学びの必要性を自覚させて主体的学びを促す。
- 教育フィールド研究II**
 教育目的の、課題探究的实践
- 基礎実習**
 研究授業の復元指導案作成や、単元教材を題材にした模擬授業を計画・実施し、教壇実習の基礎を養う。
- 学校教育実践開発論II**
 グループワークを中心とし、授業方法や学級経営、生徒指導などのテーマに沿った実践の自己開示と経験交流を通じた「省察」により、自己の経験を理論と結びつけ、また普遍化を試みる。
- 学校臨床研究**
 附属学校、へき地校等と大学をオンラインでつないだり、録画により場面指導やストップモーション方式による教師の指導ポイントを解説したり、それまでの様々な実践活動を省察する。

教師としての自信と実践的資質・能力を次第に深めていく

- ・探究と省察が習慣化
- ・学び続ける態度が身につく

教職に関する実践的な理解と自信を育てる

- ・学ぶ意義や有用性を実感するようになる
- ・「教職」というものの体験的理解が進む

教師になる、そのために学ぶという強い動機づけを与える

- ・教師を目指す自覚を促す
- ・教職の遣り甲斐を再認識させる

【教職大学院】地域から求められる高度専門職業人養成と地域教育の高度化への貢献

【第4期中期計画(案)】 (一部抜粋)

- ・臨床的研究活動をベースに実践的な新しい教育方法を開発・導入し、新たな教育課程へと見直す。
- ・学び続ける教員を支援するため、教育委員会と連携・協働し、(中略)オンライン履修プログラムを開発・提供する。

オンラインプログラムの開発により、大学キャンパスから離れた遠隔地で働く教員に学ぶ機会を提供し、地域教育の高度化に寄与。

他大学(福井大学教育学部ほか)の教職大学院との連携についても準備

- ・提供できる授業科目が多様化し、現職教員の多様なニーズに応えることができる
- 単位互換制度を使い、連携大学における入学生増加が期待できる。
- ・新たな教員研修の、充実したプログラムを提供できる道が開ける。

土台となる研究等の基盤強化

【本学で既に実施している事項】

- ・大学教員の附属学校FD研修
- ・教授昇任時に教育関連論文必須

教員養成大学・学部は、教職や教科の土台となる多様な基礎研究の理論・内容を「教育実践」へと応用し、「検証」を通じて具体的な「学校教育の在り方」を示すことが求められている。このことを自覚し、強い使命感を持って教員養成教育にあたる必要がある。

【教師の養成と育成を支える、臨床的な研究の推進により教育現場が直面している課題に応える】

- ・学校で学ぶ幼児・児童・生徒の学習や、心の発達・成長に関わる問題
- ・学校という制度の在り方に関わる問題
- ・教師を養成することに関わる制度・教育課程とその内容等に関わる問題 などに取り組む。